

審判員資格者通信

No.11

2024.12

福岡県バドミントン協会
競技・審判委員会 発行

平素より、福岡県バドミントン協会事業に対しご協力いただきありがとうございます。ルール変更等ありますので、審判資格者通信 No.11 をお届け致します。審判資格をお持ちの皆様への有意義な情報となることを願っています。

I 競技規則について

① 遅延行為が厳しく判定されるようになった。(主審判断)

サーブ時のレシーバーの「待て」のジェスチャーは認められないこととなった。レシーバー側が「待て」のジェスチャーをしていてもサーブの体勢が整っているとみなされ、主審の判断でインプレーになることもある。この場合、必要に応じてフォルト又は遅延行為が適用される。
(競技規則第9条 第1項(1)(2))

② スピンサーブの使用禁止期間が来年1月1日まで延長になった。(競技規則第9条第1項(5))

II 主審の行動指針 (一種大会など正式な大会で審判をする時や出場する時に困らないための確認)

① 片方のエンドのサービスラインに選手を集めてコイントスを実施したら出来る限り早く審判台に座ること。集めるエンドは大会及び会場によって異なるためレフェリーに事前に確認する。

(下図のジャパンオープンを参考に) ※サービスジャッジの所作も参考のため掲載

② インプレー中にガットが切れてラケットを交換する際、インプレー終了後素早くガットを切ることが認められた。

③ これまで主審の許可が必要であった「タオルの使用」が「素早いタオルの使用」のみであれば主審の許可が不要になった。(公認審判員規程第5条第10項(3))

④ コーチは許可されたインターバルの間を除き、マッチ中、指定された席に着席するものとし、コートそばに立ってはいけい。もし、ほかのコートに移動したければ、必ずシャトルがインプレーでない時にすること。(公認審判員規程第5条第12項(2))

⑤ コーチの服装はコーチにふさわしい服装であってイコールプレーヤーの服装ではない。七分丈のズボンやショートパンツ着用でのコーチング席への着席は認められない。但し、レフェリー判断で許可されることはある。(公認審判員規程第5条第12項(8))

⑥ 足がつる(けいれん)等の場合、インターバル中を除き、マッチ中、1度だけスプレーを使用した処置をすることが出来る。主審は、このケガ等の処置について時間を計測すること。(公認審判員規程第5条第14項(1))

⑦ 着衣について、従来、白色のシャツもしくは審査合格品と明記されていたが、今回から全て審査合格品でなければならない、となった。(大会運営規程第4章第23条)

⑧ ユニフォーム背面にアルファベットを用いる場合、大文字のみの使用となっていたが、今まで通り、小文字も認められることになった。(大会運営規程第24条(1)(4))

アンパイア・サービスジャッジ編
試合前の立ち位置に注目



選手が到着するまで、主審は、サービスライン上にサービスジャッジは、主審のネット側に立つ。

トスの場所は、主審立ち位置とする。



Photo credit: BWF/BADMINTONPHOTO

トスの流れをよく確認しよう。

サービスジャッジの所作を確認しよう。

